

昭和20年8月18日からのソ連軍進攻



北方領土元居住者調

(昭和20年8月15日在島者)

居住島(村)名	居住者数(人)
歯舞群島	
歯舞村 水晶島	983
秋勇留島	88
勇留島	507
志発島	2,259
多楽島	1,460
計	5,297
色丹島	
色丹村	1,041
国後島	
泊村	4,850
留夜別村	2,498
計	7,348
択捉島	
留別村	2,256
沙那村	1,000
葉取村	349
計	3,605
合計	17,291

占領された島々

第2次世界大戦で日本が敗戦し、昭和20年8月15日「ポツダム宣言」を受諾、ソ連軍は、千島列島を次々と南下し、8月18日から9月5日までに全ての島を占領、その兵力は、9,440名であつたといわれています。

島で生活していた人のなかには、暗やみの中小舟で島を離れ、途中荒波の犠牲になったり、わずかな身のまわり品をもって樺太を経由してたいへんな苦勞をして本土に上陸したのです。引き揚げた人々は、親類などを大部分の人は、島の見える根室地方に落ち着いたものです。

北方領土返還運動

日本固有の領土である国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島は、私たちの祖先から代々引き継いできた地であり、これを再び手に取り戻そうと根室の地から返還要求の声が叫ばれたのは、終戦の秋頃からでした。

当時の根室町長安藤石典は、島からの引揚者の援護に全力をあげるとともに、昭和20年12月1日には連合軍最高司令官マッカーサー元帥あてに北方領土返還についての陳情書を出しました。これが北方領土返還運動のはじまりです。

根室からあがった返還要求の声は、やがて北海道内の各地にこだまし、運動の輪はしだいに広がりを見せ、昭和25年にはいろいろな団体と道内自治体と一緒に「千島及び歯舞群島返還懇請同盟(後の社団法人北方領土復帰期成同盟)」を発足させ、昭和30年には元居住者たちも自分達の父祖の地を返してもらおうと「千島列島居住者同盟(後の社団法人千島歯舞諸島居住者連盟)」を発足させました。これらの団体は、政府への陳情をはじめ各地での住民大会、講演会、北方領土展、署名などを展開し、領土の返還に対する世論を盛んにするため、預張っています。